イナリサーチ　Ｓ高

シミックＨＤ子会社と業務提携

イナリサーチ（２１７６・ＪＱ）が４日、ストップ高（６７９円）に張り付いた。**シミックホールディングス（２３０９）**子会社のシミックファーマサイエンスとの業務提携が材料視されている。

同社は医薬品非臨床試験受託を主力とし、中でもサル（マーモセット）を用いた研究を強みとしている。今回の提携では受注キャパシティーの増強を目的としており、薬効薬理試験や安全性評価試験における営業活動、試験実施面において協力体制を構築するとともに、試験資材の共同購入など購買力を高めていくとのこと。受注機会の損失を防ぐことや、効率化・コスト改善などの観点からシナジーが期待される。

前期は受注回復の遅れや感染症発生などによるフィリピン拠点閉鎖などから営業損益は２億７００万円の赤字に沈んだが、今期についてはバイオ医薬品分野での受注拡大、遺伝子解析試験の取り組み、アカデミアからの受注強化が奏功し、受注実績は前連結会計年度を17・6%上回るなど、受注低迷に歯止めがかかっている。通期営業利益は６７００万円への黒字転換を見込む。

また、６月30日には実験動物中央研究所や慶応義塾大学などが免疫不全のサルの作製に成功したことが発表されており、マウスより人に近い霊長類を活用した治療法開発に注目が集まる中、同社にも関心が向かいそうだ。

話題

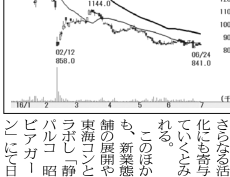
海帆

ムスリム対応開始

インバウンド需要拡大のカギ

２０２０年の東京五輪開催を控え、今後ますます拡大が見込まれるインバウンド（訪日観光客）市場。主に韓国・台湾・中国など東アジア諸国からの訪日が目立つが、近年は経済成長が著しい東南アジア諸国からの観光客が急増してるという。東南アジア諸国は若年人口が多く、また、ムスリム（イスラム教徒）が多い地域でもある。ムスリム人口は世界人口の約４分の1を占める約19億人と言われており、これを受けて、今後のインバウンド需要拡大の要ともされている「ハラール認証」の取得に取り組む飲食店も増えてきた。

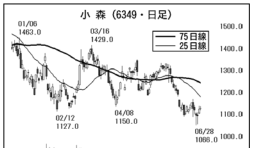
こうした背景から、６月30日に「ゆずの雫　姫路駅前店」におけるムスリム対応の開始を発表した**海帆（３１３３・東マ）**に注目。英語による情報開示型ムスリム対応を基準とした「Ｍｕｓｌｉｍ　Ｗｅｌｃｏｍｅ対応」を提唱推進する一般社団法人メイドインジャパン・ハラール支援協議会の監修を受け開始したもので、店内には国内観光地ではまだ少ない礼拝スペースも設置されている。また、観光マップを作成し地域と連携したイベントの実施、食文化の情報発信にも取り組むなど、姫路エリアのさらなる活性化にも寄与していくとみられる。



このほかにも、新業態店舗の展開や、東海コンとコラボし「静岡パルコ　昭和ビアガーデン」にて日本最大級の街コンイベントを行うなど、他社とは一風変わった事業展開が印象的。中期戦略では知名度を生かし東海地区から近隣県への進出、また関東圏・関西圏への本格進出を計画しており、出店拡大による収益向上が期待できそうだ。昨年11月には年２回、１００株以上の保有で食事券を贈呈する株主優待制度も新規導入されており、次回確定月の９月末に向けて権利取り妙味も膨らむ。

小森コーポ　底離れ鮮明

手厚い株主還元策続く



小森コーポレーション（６３４９）が急伸、底離れを鮮明にしてきた。

同社は前週末1日引け後に発行済み株式数の６・13%に当たる３８０万株、取得額50億円を上限とした自社買いと、７月29日付で６００万株（発行済み株式数の９・68%）の消却を併せて発表しており、好感買いを集めた。もともと、今年１月６日の年初来高値（１４６３円）から十分な整理を経ている上、株価水準にしても、前週に付けた安値１０６６円は過去３年間で見ても下値限界ラインとあって、買い安心感も誘うところだ。

今３月期については、増収減益予想だったことから、長らく物色の圏外に放置されてきたが、新興国の中でも、インドやＡＳＥＡＮ（東南アジア諸国連合）向け印刷需要の獲得に注力する方針で巻き返しを狙っている。第１四半期決算は７月28日に発表予定。

一方、今年４月からスタートした第５次中期３カ年計画では、引き続き「事業構造変革」および「営業の業態変革」を推進。最終年度の２０１９年３月期までに売上高１４００億円（前期実績９５３億円）、営業利益１２５億円（同66億円）への大幅増収増益を目指すほか、総還元性向40%以上を掲げており、手厚い株主利益還元策が今後も続く見通しだ。

ソラスト

ＩＰＯ社長会見

ソラスト(6197)が６月29日、東証１部に新規上場した。取引開始から間もなく公開価格比6%安の1222円で初値を形成したが、直後に一段安するなど終始軟調な展開となった。終値は1091円。上場当日の記者会見で石川康彦表取締役社長＝写真＝は次のように語っている。

ＡＩ活用で利益率向上、配当性向50%維持

主力は病院内「医療事務請負」…創業51年目を迎えた当社。医療事務領域の教育機関として事業を開始したが、現在は「医療事務請負」と「介護」との２本柱を展開する。売上高の８割を占める医療事務請負事業では病院内のあらゆる事務、例えば受付・会計業務や診療報酬請求、カルテ管理などを手掛け、大規模病院の場合には１施設につき200人以上のスタッフを投入する例もある。ある調査によれば医療事務の委託率は36%にとどまり、潜在ニーズはまだまだ大きい。

超成長領域「介護」にも対応…介護事業では訪問介護や通所介護など在宅介護サービスを提供する。現在の拠点数は219で、すべて関東、関西、名古屋の３大都市に置く。既に高齢化が進んでしまった地方を追うかたちで、３大都市圏ではこれから高齢化が本格化するためだ。介護市場は2016年の10兆円から25年には21兆円にまで拡大するとの試算がある。一方で業界には中小規模の事業者が乱立し、時折、不祥事なども聞こえてくる。利用者は安心・安全を強く求めており、これに応えるためにも、それなりの規模を持つ当社がＭ&Ａ（企業合併・買収）などを駆使して早急にシェアを拡大させたい。業界のリーダーとして信頼される会社を目指す。

業務フロー見直しで生産性向上…業績は堅調だ。今３月期は売上高で前期比5%増の663億円を見込むなど、近年、着実に成長を続けてきた。当社はサービス提供会社であるがゆえ「利益」にこだわっており、引き続きＲＯＥ（自己資本利益率）20%超を維持することを目指す。そのためには、これまで人海戦術に頼っていた採用や育成などの業務を本社内で一括管理したり、ＩＣＴ（情報通信技術）やＡＩ（人工知能）を積極的に活用するなどして生産性の向上に努める。

大引け前ホットライン

売られ過ぎの反動高も

SBI証券
投資調査部長
鈴木英之氏

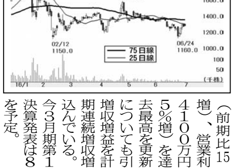
英国のＥＵ離脱騒動の中、リスク回避で「円」が買われた。その一方で「日本株」は最悪のケースまでを織り込んだとみられ、ほかの欧米市場に比べても売られ過ぎていたため、その反動が出たとしてもおかしくはない。

むろん、想定以上に円高が進んだことが、今回の日本株の急落につながったわけだが、全体としても悲観的になり過ぎていた。このため、為替の落ち着きとともに、東京株式市場は修正高に向かうことになったわけだ。目先は日経平均算出に際して、アベノミクスの平均値でもあるＰＥＲ13倍台半ばを当てはめると、１万６０００円台が戻りの目安として意識されそうだ。

ただ、そうは言っても、１㌦＝１０２円台は日銀想定水準よりかなりの円高。追加緩和期待も再浮上しそうだ。物色対象としては、７月下旬から四半期決算が控えており、下方修正銘柄を避け、内需系ＢｔｏＢに狙い目。ガラス、セメントや資源株など、ここまで、物色の圏外にいた銘柄群を見直したい。

アドソル日進　ＩｏＴ分野に注力

アドソル日進（３８３７・２部）に注目。６月30日にはセキュリティー・ソリューション大手のウェブルートとＩｏＴ（モノのインターネット）分野での協業を進めていくことを発表した。同社が日本国内総代理店として販売・導入を展開する「ＬｙｎｘＳＥＣＵＲＥ」とウェブルートのクラウド型製品の融合により、あらゆるデバイスや通信をより高いセキュリティーレベルで保護するサービスを展開していくとのことだ。また、ＩｏＴ領域において、デバイスなどに両社のセキュリティー・ソリューションを組み入れたシステムを提供。その導入コンサルティングからシステム化対応、運用・保守までをワンストップでサポートするとしている。前期から重点施策として情報セキュリティー、サイバーセキュリティーへの取り組みを本格的に実施している中、今回の協業による事業強化で第２の収益基盤としての早期確立が期待される。



足元の業績は好調で、社会システム事業が主に売り上げをけん引する中、電力自由化対応の受注が大きく拡大したことが寄与し、前期は売上高１０４億６０００万円（前期比15・７%増）、営業利益５億４１００万円（32・５%増）を達成し過去最高を更新。今期についても引き続き増収増益を計画、７期連続増収増益を見込んでいる。なお、今３月期第１四半期決算発表は８月上旬を予定。

ピックルスコーポレーション

主力製品など好調

ピックルスコーポレーション（２９２５・ＪＱ）が６月29日、一時前日比２５０円高の１４６０円を付けて上場来高値を更新した。

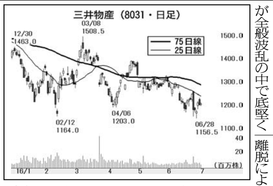
手掛かりとなったのは28日の今２月期第１四半期決算発表。売上高93億３０００万円（前年同期比21・４%増）、営業利益４億８１００万円（同78・８%増）と大幅な増収増益を達成した。通期予想は据え置かれており、この先の業績上ブレや好業績を背景とした連続増配への期待も高まる。

３月に買収した「牛角」ブランドのチルド製品を展開するフードレーベルホールディングス（ＦＬＨ）を子会社化したことや、「ご飯がススムキムチ」などのキムチ製品の好調な推移が寄与したようだ。ＦＬＨは高い企画力を生かした有名店などとのコラボレーションを積極的に行っており、製品製造においてもさまざまな商品コンセプトを実現するために、国内外に多数の協力工場のネットワークを構築している強みを持つ。この先も同社の事業領域や収益拡大に貢献していくとみられる。

上場来高値を付けてやや一服商状も、今後の株価動向を注視しておきたい。

三井物産　相場修復へ

悪材料織り込み、仕込み場



三井物産（８０３１）が全般波乱の中で底堅く推移、１２００円前後は下値岩盤とみていい。

資源価格急落による大幅赤字転落を嫌気して、今年２月に約３年３カ月ぶりの安値（１１６４円）を付けるなど、株価は低迷状態が続いている。ただ、６月28日に安値１１５６円でダメ押しを入れた後は戻り歩調となっており、ここから〝自然体〟での今３月期の収益回復に焦点を当てた相場修復が有力となりそうだ。

英国のＥＵ（欧州連合）離脱によるショック安は一巡したが、これにより、米国の利上げが遠のき、同時に投機マネーが再び、投資先を求めて一部が原油や銅など資源に向かっているもよう。同社は原油市況の底入れ反転を背景に、再び原油権益獲得に動くなど、その機敏な対応も注目されている。

今期は年50円配当（前期64円）を掲げており、頑強な財務体質にも関心が高まりそうだ。約３年半ぶりの安値水準とも併せて、さらなる株主優遇策としての自社株買いも期待される。

ファーストエスコ　高値に接近

バイオマス発電が拡大へ

ファーストエスコ（９５１４）が巻き返し、６月21日に付けた年初来高値（７６８円）に接近してきた。

６月29日引け後に栃木県での木質バイオマス発電事業の用地確保を発表しており、現在、建設中の大分県、豊後大野発電所とともに一段の事業規模の拡大が進む見通しで、注目度が増している。

再生可能エネルギーの中でも、バイオマス発電は比較的安定した電力供給が可能。地熱発電とともに政府は買い取り価格を据え置いており、〝国策〟としての育成・強化が今後も進む公算が大きい。

一方、先に２０１６年６月期末配当を２円増配の５円に引き上げると発表したこともポイント。この先、安定した収益確保への自信の表れとも受け取られている。

森林資源などを生かせる木質バイオマス発電は、地域の林業などと連携して地方活性化の起爆剤ともなり得る存在であり、事業意義が見直されそうだ。

信用取引　貸借取引

【72】

東証上場企業の売買代金に占める空売り比率が６月10日に47・０%を記録。８カ月半ぶりに過去最高を更新して話題を呼んだ。ただ、これは裁定取引絡みや海外投機筋によるものなどが主体で、信用取引が盛り上がっているわけではない。信用取引に関しては、直近６月24日申し込み現在の買い残が3年2カ月ぶりの低水準（２兆３６８６億円）にとどまり、売り残も低調と、全般に減退気味。折からの地合い難が背景だ。とはいえ、近年は各種規制緩和が進むなど、信用取引の利用には有利な流れが生じている。

毎日連載、バックナンバーはデジタル版へ

三菱ガス化学

抗体医薬と健康食品に注力

抗体医薬と健康食品に注力している**三菱ガス化学（４１８２）**に注目したい。２０１４年に抗体医薬の開発受託を行う子会社ＭＧＣファーマを設立したが、今年６月には**日本化薬（４２７２）**と合弁で抗体医薬製造会社も設立した。抗体医薬は免疫を利用して、がん細胞などをピンポイントで狙い撃ちするため、効果が高く、副作用が少ないという利点がある。

また、秋には「ライフサイエンス事業部」を新設し、抗体医薬と健康食品の事業拡大を図ることも計画している。健康食品はＤＨＣ向けに脳機能を維持し、ボケ防止に役立つことが期待される「補酵素ピロロキノリンキノン二ナトリウム塩（ＰＱＱ）」を供給している。新設するライフサイエンス事業部では年間１製品の追加を目指し、開発を進める方針を立てている。

市場のうわさ

未確認情報

ラマダン終了　６月６日からスタートしていたラマダン（断食月）が５日で終了する。かつてのようにオイルマネーの動きに期待はできないが、何か変化の兆しとなるか。

２つのイベント　「ＩｏＴテクノロジーウエスト２０１６」が大阪で７日から２日間開催される。**アバールデータ（６９１８・ＪＱ）**などが出展する。８日には「民泊の指針策定に向けた官民検討会議発足」が予定。民泊テーマはここ沈黙しているが材料出現に期待も。

7月5日（火）の予定

- ▨10年国債入札
- ▨決算発表、サンエー、アスクル、フロイント産業
- ▨豪州準備銀行理事会
- ▨ＢＯＥ半期金融安定化報告
- ▨米５月製造業受注
- ▨米ダドリーＮＹ連銀総裁が講演

取引注意

５日

▽マルコを日々公表銘柄に指定　東証が４日から。

▽ディジタルメディアの日々公表銘柄指定を解除　東証が１日付で。

▽ウインテストの信用取引で臨時措置　東証が４日から委託保証金率を50%以上（うち現金20%以上）に。日証金も貸借担保金率を引き上げ。

▽ラ・アトレを東証が貸借銘柄に選定　４日から。日証金も貸借銘柄に追加。

ヤマトＨＤ　高値奪回へ

「ネコポス」好調、収益増額期待

ヤマトホールディングス（９０６４）が足元堅調な推移で、２月高値（２６４４円）奪回を視野に入れてきた。

同社は宅配便市場でトップを独走中だが、国内市場の伸びが鈍くなる中、海外市場の開拓にも意欲を見せている。１日は一部外資系証券が業績予想を上方修正し、目標株価も２６００円に引き上げたことが刺激材料となった。その原動力の１つとなったのが新商品の「ネコポス」の好調だ。

これは、厚さ２・５㌢以下、重さ１㌔以内の荷物を直接、ポストに投函するサービス。配達完了後はメールで差出人、受取人に配信するもの。留守がちな家にとっては朗報だろう。また、対面での「宅急便コンパクト」も好調だが、この先はコンビニや営業所での受け取りだけでなく、新たな受け取り場所の確保が求められており、「駅」などへの開拓も本格化しそうだ。

丸井グループ

店舗がない地域でも会員数増加

丸井グループ（８２５２）はクレジットカード「エポスカード」の発行場所を自身の小売店舗以外にも広げており、地方の商業施設との提携カードが増加している。前期のカード会員数６１３万人のうち、丸井の店舗がない地域での会員数は57万人と１割近くに達しており、今後も地方の商業施設との提携カードを増やし、カード事業の収益を拡大する方針だ。

小売事業ではネット通販を活用したオムニチャネルを推進している。丸井の店舗のない名古屋や広島、仙台などのショッピングセンターのイベントスペースを２週間ほど借りて、レディスシューズのキャラバン隊を展開している。カード会員になる人も多く、服などの購入に結び付くなどの相乗効果も出ているという。

個人投資家向けＩＲセミナー

日本証券新聞は全国で開催しています

開催日	開催地	募集定員	説明会企業	コード	株式講演会（敬称略）
７月28日（木）	広　島	120名	ユー・エス・エス	4732	木村佳子
			第一交通産業	9035	
７月22日（金）	福　山	100名	東急リアル・エステート投資法人	8957	木村佳子
			積水ハウス・ＳＩレジデンシャル投資法人	8973	
			ケネディクス・レジデンシャル投資法人	3278	
７月19日（火）	鳥　取	100名	ユナイテッド・アーバン投資法人	8960	木村佳子
			森トラスト総合リート投資法人	8961	
７月14日（木）	名古屋	150名	参天製薬	4536	植木靖男
			伊藤園	2593	
			アステラス製薬	4503	
７月９日（土）	札　幌	180名	ユー・エス・エス	4732	木村佳子
			ダイナムジャパンホールディングス	06889	
６月24日（金）	札　幌	150名	イオンリート投資法人	3292	植木靖男
			アドバンス・レジデンス投資法人	3269	
６月21日（火）	広　島	120名	フロンティア不動産投資法人	8964	杉村富生
			ＭＣＵＢＳ　MidCity投資法人	3227	
			コンフォリア・レジデンシャル投資法人	3282	

※網掛けは終了。予定は変更の可能性があります

スマホで読める
『日本証券新聞Digital』

- 本紙記事をＰＤＦで前日16時頃、テキストで18時頃までに更新
- Digital専用記事や投資に役立つData、カレンダーなど多彩な情報
- 2014年以降のバックナンバーを閲覧可能（順次拡大予定）

月額 3,000円、
３カ月一括の場合は
7,500円
（ともに税込）

お申込み　www.nsjournal.jp
の新規登録申し込みから
決済方法　クレジットカードのみ
お問い合わせ　support－dg@nsjournal.jp

日本証券新聞は
首都圏のＪＲ駅売店で販売しています
（取扱いは一部の駅になります）
◇月曜から金曜（祝日を除く）の18時頃から
閉店まで　１部：240円（税込み）◇

東京	構内「銘品館」横、八重洲北口改札前 八重洲南口改札内、丸の内南口改札内 丸の内中央改札口内、丸の内・地下改札内
田町	南口改札内
有楽町	中央口改札外
新橋	烏森口改札外
品川	北口改札内、中央改札内、京急乗換口
新宿	地下西口改札内、小田急連絡口改札内 南口改札内、南口改札内横
池袋	北口改札外（階段上）、北口改札外正面 地下、中央通路・南通路
大崎	北口改札内、南口改札外
秋葉原	総武線ホーム（千葉方面）
千葉	東口改札外、東口改札内

雄峰堂書店でも販売しています
（東京メトロ茅場町駅、改札外11番出口すぐ）